

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

昨年度は、「哲学」的な文章と「文学」を論じた文章が出題されたが、今年度は、「音楽」について論じた文章と作家の「社会」についての考え方を論じた文章とが出題された。また、設問では、2年続いて出された抜き出し問題が出題されなかった。大問一、大問二ともに字数条件が厳しく、要素の取舍選択が難しかったかもしれない。ただ全体としては昨年度とほぼ同程度の難易度であったと考えられる。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	大嶋義美『演奏家が語る音楽の哲学』(講談社選書メチエ 2022年 所収)	加藤周一「E・M・フォースターとヒューマニズム」(『加藤周一セレクション1』平凡社ライブラリー 1999年 所収)
頻出度合 ・的中等	入試では稀な筆者の文章である。	入試で頻出する筆者である。
分量 前年比較	分量(減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3890字 約700字減	分量(減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3450字 約700字増
難易 前年比較	難易(易化)・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化)・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	音楽論	問一	記述	標準	漢字の書き取り問題。4「妖術」がやや難しい。
		問二	記述	やや難	傍線部の理由説明問題。字数条件が厳しいが、3ページの4行目から7行目をふまえて書く。
		問三	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部の「接点」がどのような意味なのか断定しがたいが、笛の神秘的な(不可視の)音を聴く者と異世界との直接的な交感が生じる、ということを中心に解答を書く。
		問四	記述	やや難	傍線部の内容説明問題。傍線部の前の内容を踏まえるとともに、傍線部の「無い」と「在る」の説明も書く。
		問五	記述	やや難	「趣旨を踏まえて」本文の内容を説明する問題。人間の生命の根源と繋がり、異界との交感を可能にする「笛」の特徴を「趣旨」として書き、その音が祭祀において鳴らされたものが「音楽の起源」である、という内容を書く。

二	作家の社会 に対する考 え方を考察 した文章	問一	記述	標準	傍線部の理由説明問題。設問の指示に従って傍線部の後の2つの引用文の中から、傍線部の「理由」になりうる内容を書く。
		問二	記述	やや難	指示語の問題。字数条件が厳しいが、傍線部の後の文脈も視野に入れながら、傍線部の前の段落の内容を中心にまとめる。
		問三	記述	やや難	傍線部の理由説明問題。これも字数条件が厳しいが、傍線部の4行前からの部分と、傍線部の4行後の内容などを手がかりにまとめる。
		問四	記述	難	傍線部の内容説明問題。出題の意図がよくわからないが、フォースターが「信念」を否定することをふまえ、傍線部をパラフレーズする。
		問五	記述	標準	傍線部の内容説明問題。フォースターの民主主義的寛容が、個人の次元では相対化されうることが前提とし、その寛容の原則がヨーロッパ中産階級に限定されたものであることを書く。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様なジャンルの文章に触れ、限られた時間と字数条件の中で、的確に解答を作成する能力を養うこと。また、漢字書き取りで失点しないことも重要なので、日頃から漢字の練習を怠らないようにしましょう。

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

鎌倉時代の軍記物語、『源平盛衰記』からの出題。軍記物語からの出題は、北大では1993年度の『平治物語』以来。本文は、守長が自らの過失を嘆き恐れて詠んだ歌が後白河法皇から評価されたという話を、能因入道があらかじめ詠んだ歌に意図的な偽装をした話と比較したもの。なお、後者の能因入道の逸話は、『無名抄』『古今著聞集』などにも収録されている。設問は、現代語訳の問題と50字・60字・90字の制限字数の問題からなる。昨年より記述字数が増加している。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『源平盛衰記』
頻出度合 ・的中等	当該箇所の出題は稀
分量 前年比較	716字 分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	軍記物語	問一	記述	標準	基本単語の意味を理解した上で、文脈に合う訳語になるように注意する必要がある。＝「無念に」はやや難。
		問二	記述	標準	傍線部直前の解釈と、傍線部中の「畏まる」の理解がポイント。
		問三	記述	標準	和歌の解釈と「態との所為にや」「叡感」の理解がポイント。
		問四	記述	やや難	自らの過失を取り繕おうとして和歌を詠んだ守長の態度と、想像で詠んだ歌を現実の場で詠んだかのように偽装した能因の態度についてまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 基本的な単語や文法についてしっかり学習し、指示語の具体化や省略されている要素の補いに留意して、文脈を踏まえた上で、正しく本文を訳出できるような解釈力を身につける必要がある。
- ・ 内容説明や理由説明など典型的な記述型設問に対するトレーニングを積み重ね、問で求められていることを過不足なく盛り込み、与えられた字数でまとめることができる記述力を身につける必要がある。
- ・ 和歌や俳諧、古典常識などについても基本的な知識を習得しておくことが必要である。

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

清の蒲松齡『聊齋志異』からの出題。本文は、敬称を用いてこびへつらう人や、敬称をつけて呼ばれることで喜び増長する人が多くなった世間の風潮を嘆いたもの。語句の読み、ひらがなのみの書き下し、現代語訳、75字以内の説明を求める出題形式は例年通りであった。問1が昨年の4問から5問になった。なお、本文に中略表記がある出題は北大漢文では極めて稀。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	蒲松齡『聊齋志異』
頻出度合 ・的中等	『聊齋志異』は出題されることもあるが、当該箇所の出題は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 209 字
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	志怪	問一	記述	標準	基本的な語句の読み。b「齋」はやや難。
		問二	記述	易	書き下し。漢文ではよく出てくる表現。「由」の読みがポイント。
		問三	記述	やや易	現代語訳。「辞」と「不敢～」の訳出がポイント。
		問四	記述	標準	内容説明(75字以内)。第一段落の神のエピソードや、第二段落に示された筆者の見解、さらに傍線部の直前を踏まえて解答を記述する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 儒家や道家などの思想に関するものや史伝、志怪小説など多様なジャンルの文章が出題されているので、問題演習を通じてさまざまな文章に触れておくと良い。
- ・ 語句の読みや書き下しで確実に得点するために、基本句形や重要語句をもれなく習得することが大切である。
- ・ 現代語訳問題に対応するため、日頃から漢字の訓読みや熟語化を通して意味を把握する訓練をするとともに、文章の前後関係をふまえた訳を考える力を身につける必要がある。
- ・ 制限字数75字の記述問題は例年出題されるので、内容を字数内でまとめる練習が不可欠である。